



教員の授業力向上と家庭教育の充実が確かな学力につながる！

1 小学校の標準授業時間数について(令和元年)

各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動授業時数配当表：年間時数

学年		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
各教科	国 語	306	315	245	245	175	175
	社 会			70	90	100	105
	算 数	136	175	175	175	175	175
	理 科			90	105	105	105
	生 活	102	105				
	音 楽	68	70	60	60	50	50
	図画工作	68	70	60	60	50	50
	家 庭					60	55
	体 育	102	105	105	105	90	90
道徳		34	35	35	35	35	35
特別活動・学級会活動等		34	35	35	35	35	35
総合的な学習の時間				70	70	70	70
外国語活動						35	35
総合計		850	910	945	980	980	980
週あたりの時数		25	26	27	28	28	28

2 教員の研鑽の時間を確保し、授業改善が確かな学力につながる！

経済協力開発機構(OECD)が昨年度実施した国際教員指導環境調査で、日本の小中学校教員の勤務時間が加盟国・地域などの中で最も長いという結果が出ています。小学校は週54時間、中学校は週56時間です。今回の調査結果で注目されるのは、日本の教員が研修などの自己研鑽に充てている期間が、加盟国で最短だったことです。OECD平均が週2時間なのに、日本は30分あまりにとどまっています。

長時間勤務を強いられる大きな要因として、勤務時間の中に、授業研究や次の日に行う授業準備に関する時間が設けられなかったことにあります。加えて、勤務を要しない土曜日及び日曜日の時間外勤務の実態があります。教職員の業務は、特別な事情(災害等の対応)を除き、7時間45分の中で取り組む必要があります。業務内容を精選・縮減、効率化し教員の業務を授業研究、授業準備及び学習環境づくりに軸足を戻します。

小学校の学級担任は、標準授業時間数に応じた教材研究及び授業準備が必要となります。夏季休業中は、学級担任が研鑽を積む大切な時期です。教員の研鑽の時間を確保し授業改善をすすめます。

3 家庭教育の充実が確かな学力につながる！

小学校だより第2号で、児童の学力向上を阻害する8の習慣「脳科学の研究成果」について、お知らせしました。脳は筋肉のように鍛えることはできますが、一度にこなせる活動量は限られています。一度に多くのことを学ぶことには、無理があります。各家庭で、児童が日々、学校で学んだことを復習する習慣を身につけるとともに、学習内容が定着するためには、日々の学習のあり方が重要です。ぜひ、小学校だより第2号を一読ください。児童の確かな学力へとつながっていきます。